

(2) 百日咳の発生状況

令和2年以降新型コロナウイルス感染症の流行により手洗い、換気など感染症対策が徹底され、百日咳の流行は激減していたが、令和6年になって381件に急増した(図5参照)。

地区別では、平成30年から令和元年も東部地区の方が多かったが、令和6年ではその傾向が顕著で全体の84.5%(322/381)を東部地区が占めた。

月別では、7月以降東部地区を中心に増加が目立ったが、年末になって西部でも増加がみられた。

年齢別では、平成30年から令和元年の頃は10歳未満の方が10代よりやや多かったが、令和6年では10歳未満に比べて10代の感染が目立ち、全体の64.0%(244/381)を占めた。

全国の累積患者数と比較してみると、鳥取県は全国で2番目に多く、流行は全国的にみても大規模であった(P32図6参照)。

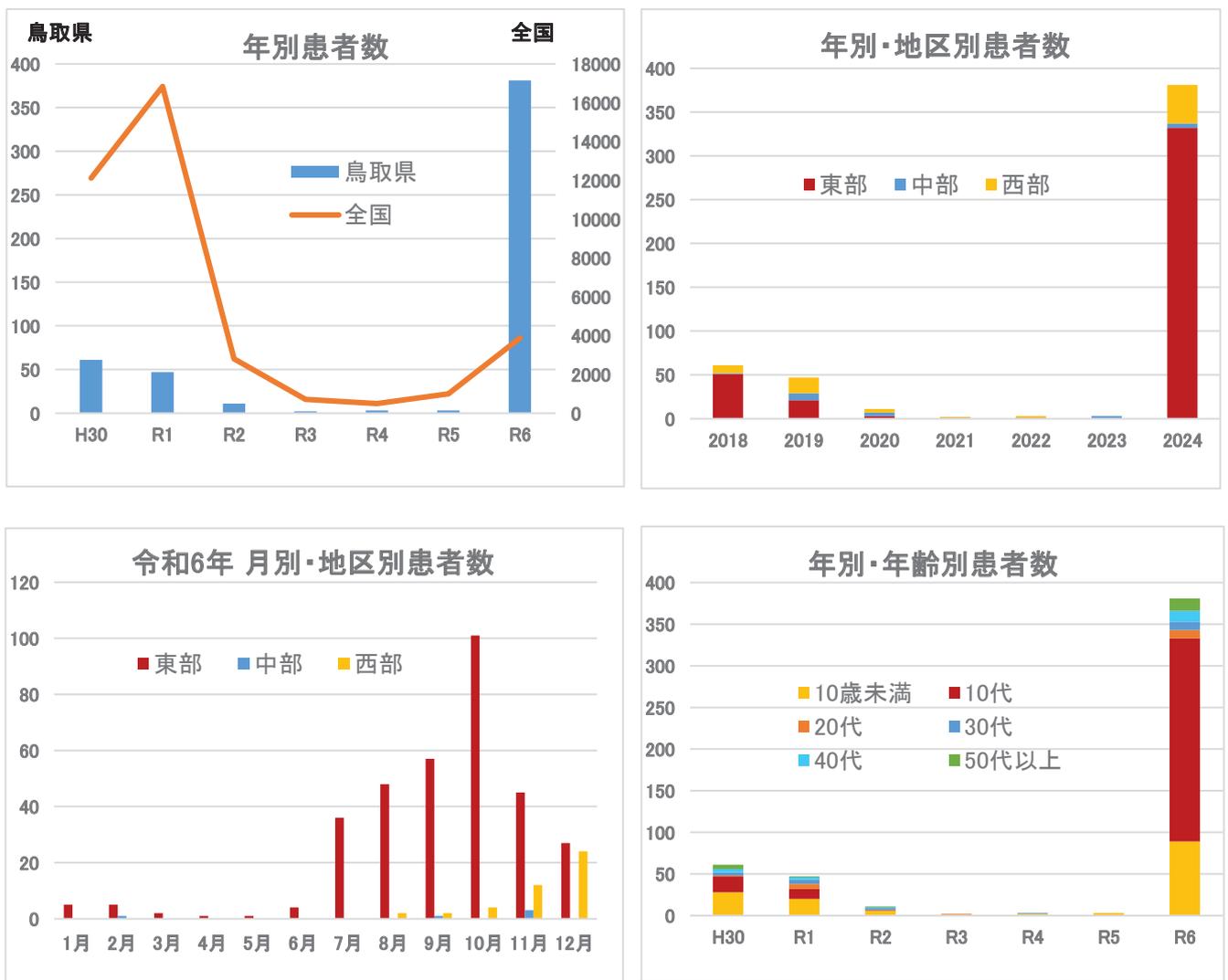


図5 鳥取県における百日咳発生状況

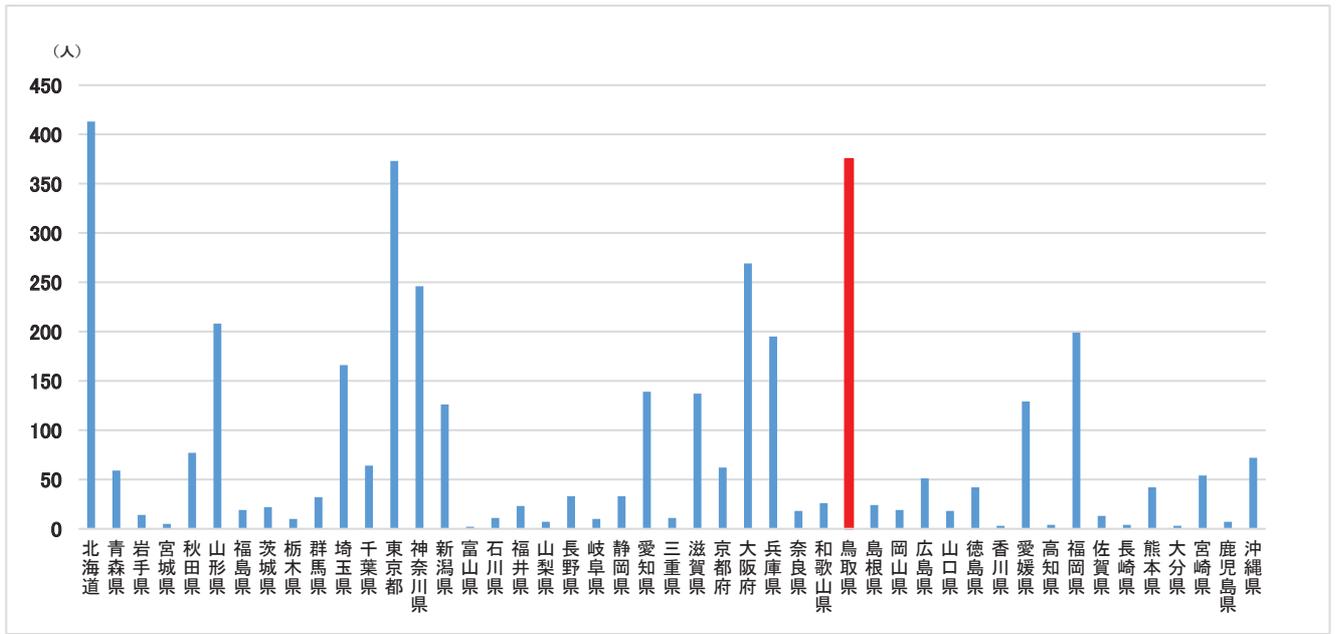


図 6 令和 6 年 百日咳都道府県別累積患者数